

ひいおばあちゃんといつまでも

おいらせ町立木ノ下中学校一年久保田菜々子

私の家では、毎朝ご飯を炊きます。そして毎日、家族七人でにぎやかに食事をします。

いつもなら毎日おばあちゃんがお米を炊きますが、ある日、炊飯器のスイッチを入れ忘れて、お米が炊きあがっていませんでした。仕方なく、冷凍していたご飯を電子レンジで温めて食べることにしました。すると、ひいおばあちゃん

が「私が子どもの頃は、お米なんてろくに食べられなかったんだよ。」

と言いました。ひいおばあちゃんは、昭和三年生まれで、当時は、日本も戦争をしている時代でした。学校の授業で、戦争中のことを勉強しました。食べるものといえば、ひえやあわ、いもなどで、今みたいにあまるほどの米はない時代でした。特にひいおばあちゃんは八人兄弟だったので、お腹いっぱいだと、言えなかったのかも知れません。ひいおばあちゃんの話聞いて、食べ物に困っていたことが事実としてあったということが、胸につきさりました。

今は、お米はもちろん、いろいろな食べ物があります。冷蔵庫が空っぽになることはありません。私や妹が「食べたい。」と言ったものは、すぐに食べることができます。それが当たり前になっていて、食べ物に困ることはありません。そして、私たちは、そのことに感謝せずに、好き嫌いをしたり、気分だけで残したりしています。炊きたてのご飯があるのに、パンを食べたいなど、わがままを言うこともあります。きつと、ひいおばあちゃんの子どもの頃では、考えられないことです。

私は、ひいおばあちゃんの言葉を聞いて、もつとご飯に感謝して食べるべきだなと感じています。

ひいおばあちゃんに、そんな昔の話を聞いてから、私はおばあちゃんにかわってお米をとぐようになりました。妹もお手伝いすることがあります。ひいおばあちゃんのために、少しやわらかくなるように、水加減を調節しています。もちろん、炊きあがったご飯を、ひいおばあちゃんや他のみんなもおいしく食べてくれます。そんなひいおばあちゃんは、現在、九十四才です。以前と比べて、だいぶ物忘れが進んで、

「今日は何曜日だか？」

「はて、どきさやったがさ？」

など、毎日のようにつぶやいています。歩き方も少しずつ弱ってきているし、日中、おばあちゃんやおじいちゃんに助けることも多くなってきました。それでも、ひいおばあちゃんには、ご飯を食べる時間だけは忘れずに、毎日、朝・昼・晩はリビングまで歩き、ご飯を食べています。それもお茶わん一杯にしっかりと食べる事ができています。私よりもたくさん食べることもあります。家族みんなは、「こうやって、ご飯をちゃんと食べられてるうちは、大丈夫だ。」と言っています。私も、そうだと思います。毎日食べているお米は、やつぱり体を元気にしてくれているのです。たくさんご飯を食べているひいおばあちゃんを見ると安心します。私はこれからも、ひいおばあちゃんや家族のために、お米を炊いて、おいしいご飯を準備したいと思います。だから、ひいおばあちゃんには、これからも、私たちのなんてことのない、他愛のない話でたくさん笑いながら、いつまでも元気にご飯を食べてもらいたいです。